

介護の魅力について

特別養護老人ホーム桃源荘 介護士 望月崇文

私が介護の仕事に携わり 18 年目。この 18 年の間、介護保険の導入、一斉一律で業務優先の「集団支援」から、利用さん一人一人に合わせた支援を提供する「個別支援」へ移行する等、介護を取り巻く状況は大きく変化しました。

そんな変革のあった 18 年間、介護を続けられた理由は「人との出会い」です。介護は肉体的にも、精神的にも負担がかかる行為である事は事実です。加えて若い頃は、失敗をしてくじけそうになったり、不安に押しつぶされそうになったり、そんな事の繰り返しでした。そんな中、支えになったのは利用さんからの「ありがとう」という言葉や、笑顔でした。今ここに立っているのは、まぎれもなく今まで出会ってきた多くの利用さんのお陰だと思っています。人生の先輩である方々と、一緒に笑ったり、学んだり出来る楽しい職場となりました。

また、同じ悩みを共有できる仲間との出会いも仕事を続けるうえでの支えとなりました。私は現在「ごらく介護の会」という団体に関わっています。「ごらく介護の



会」は職場の有志の集まりが始まりでした。お互いの介護技術の向上や、仕事の悩み等を話す場となり、今では、他の法人からも有志が集まり、出張の技術勉強会や、外出支援等も行っています。この仲間と話をすると「悶々と悩んでいるのは自分だけではない」と確認する事が出来て、初心の熱い気持ちも思い出す事が出来ます。

そんな多くの「人との出会い」が、私を今も前へ前へと進めてくれます。人の人生に関わり、喜びや悲しみを一緒に分かち合う。そんな介護が出来る事を光栄に思い、誇るべき仕事だと思っています。

私が思う介護の魅力はここにあります。